

全財務局 管内経済情勢報告

	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回との 基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

財務局名	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回との 基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、緩やかに持ち直している。
東北	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械が供給制約の改善に伴い持ち直している一方、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから引き続き弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
関東	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響はみられるものの、百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械、電気機械が増加しているものの、生産用機械などが減少しており、一進一退の状況にある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある。
北陸	<u>持ち直している</u>	<u>令和6年能登半島地震前は、持ち直していたが、現時点では、まずは地震による地域への影響全体について十分に把握する必要がある</u>	—	令和6年能登半島地震前は、個人消費は、ドラッグストア販売が拡大しており、百貨店・スーパー販売が持ち直していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが下げ止まっているほか、化学が緩やかに回復しつつあるものの、生産用機械が拡大の動きに一服感がみられることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。現時点では、まずは地震による地域への影響全体について十分に把握する必要がある。
東海	<u>一部に弱さがみられるものの、回復している</u>	<u>一部に弱さがみられるものの、回復している</u>	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一部に弱さがみられるものの、自動車関連を中心に回復している。雇用情勢は、緩やかに改善している。
近畿	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
中国	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、外出関連消費が好調なことなどから、緩やかに回復しつつある。生産活動は、半導体不足の改善などから、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
四国	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	➡	個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光も緩やかに回復していることから、全体としては持ち直している。生産活動は、パルプ・紙が弱含んでいるものの、化学が緩やかに持ち直しつつあるほか、食料品が持ち直しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
九州	<u>回復しつつある</u>	<u>回復しつつある</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、回復しつつある。生産活動は、海外経済の減速などの影響がみられるなか、横ばいの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
福岡	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
沖縄	<u>回復しつつある</u>	<u>回復しつつある</u>	➡	個人消費は、緩やかに回復している。観光は、回復しつつある。雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。

(注) 6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。
北陸は、令和6年能登半島地震による地域への影響全体について現時点では十分に把握できないため、前回との基調比較は行っていない。
下線部が基調判断。